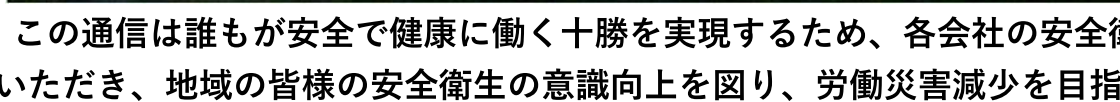


令和7年11月号 №11



死亡者数 8 人
死傷者数 392人

目 死亡者数 5 人以下
標 死傷者数465人以下

死亡災害が多発しています。～令和元年以来最多～

起因物に着目すると**機械に関する災害**（機械に挟まれた、機械ごと転落した等）で5人が亡くなっており、**機械操作は慎重に**しましょう。

揭示板

建設業の健康・安全対策防止対策や労働安全衛生対策等については、
 広聴部HP及び北海道労働局HP、リーフレット等をご確認下さい。

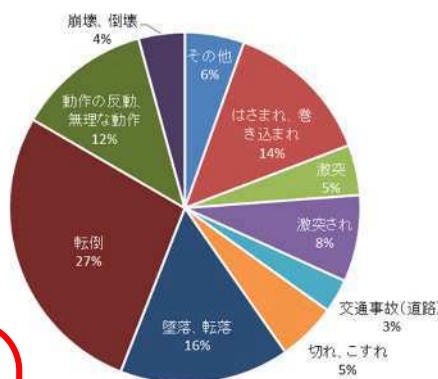

 厚生労働省・北海道労働局・帯広労働基準監督署
 〒010-8016 帯広市西6条南7丁目3 帯広地方合同庁舎
 〒101-8511 9-7-13 44 (9:00-12:44)



転倒災害に気をつけましょう。

■転倒は高齢になると重症化する傾向があります。

直近3年の事故の型別 (R4-6)



転ばないコツ教
えます 札幌
発！冬道を安
全・快適に
歩くための総合
情報サイト▶
(ウィンターライ
ブ推進協議会)



▲転倒予防体操
(ウィンターライフ
推進協議会)

こんな場所には要注意！

- 凍結路面
- 再凍結した場所
- 除雪機械等が通過した直後のつるつる路面
- 交差点の手前（横断歩道）
- 薄っすらと雪が積もった道路
- 屋外階段



＜転倒防止のポイント＞

- 1 気象条件に応じた転倒防止対策
- 2 転倒時のけがを軽減させる服装の励行
- 3 転ばない、転んでもけがをしにくい身体づくり



帯広労働基準監督署・帯広労働基準協会

北海道冬季ゼロ災運動

冬季の北海道では、道路凍結等による転倒、自動車やスリッパや靴等の使用不慣れによる交通事故、道路作業に伴う凍結や雪融剤の投擲、屋内外での火気使用機器の使用による一酸化炭素中毒などの冬季特有の労働災害が多く発生しています。

「北海道冬季安全口元運動」は、これらの労働災害を防止するため、事業者と労働者が一丸となって取り組みを行う具体的な事項を提唱し、冬季安全の改善を目標とするものです。

労使が協力して「北海道冬季安全口元運動」に取り組みましょう。

令和7年12月1日
～令和8年3月31日 まで

[illegible]

共通事項

- 1 経営トップはを季節別に合わせた各種対策に積極的に取り組むこと。
- 2 季節特有の要因を踏まえたリスクの見極めを行い、ハザードマップ等を作成するとともに、リスク低減対策を講ずること。（リスクアセスメント）
また、作業開始前のKY（危険予知）活動、災害事例を取り入れた安全衛生教育

3 安全衛生管理体制を整備し、安全担当責任者自ら具体的な取組活動の管理を行うこと。

4 危険予測を事前に把握し、これに応じた作業スケジュールを計画すること。
また、大気、低周波の騒音、放射線等特定の個体等への増加懸念及び職業病のおそれがある場合や重大時の作業中止基準を策定すること。

5 事故の発生原因等での長所短所は選り分け、屋外作業においては、日照時間

6. 特に初めて北海道の冬を経験する者に対して、冬季用の靴の着用や雪道の歩き方（小さな歩幅で、靴の裏全体を滑け、走らずゆっくり歩くこと）、自転車等の冬道運転等の安全教育を行うこと。

冬季の労働
災害防止に
ついて
北海道労働局
HP▶



SAFEコンソーシアム



関連：SAFEアワード

無災害表彰制度

■“災害ゼロ”の目標、
改めて意識して
みませんか？
■積み重ねの結果



北海道最低賃金

令和7年10月4日改定

時間額

1075円



事業所名 : (株) J-POWERハイテック 発電事業本部 北海道統括センター 上士幌事業所
 地域 : 本社 (東京都) 北海道統括センター (札幌市) 上士幌事業所 (河東郡上士幌町)
 業界・業種 : 建設業 (水力発電設備の保守点検他)
 従業員数 : 全社約1,200名 上士幌事業所 : 77名 (パート・アルバイト含む)

上士幌事業所における労働災害発生防止に向けた取り組み

当社は、J-POWERが保有する、十勝管内のダム (8地点) ・水力発電所 (9地点) の設備保守・点検他業務を行っております。
 安全活動については、全社共通の取り組みに加え、各事業所単位での取り組みを交えながら、労働災害防止に努めています。
 今回は、活動の一部となりますがご紹介させていただきます。

◎着衣状態に於ける落水体験訓練

当事業所では、他所で過去に発生した落水事故を教訓に、2018年度より近隣の上士幌小学校のプールを借用し、年に1回外部講師協力のもと、所員並びにパートナー企業従業員の皆様を対象に、着衣状態における落水体験訓練を実施しております。

着衣状態における、水中での感じ方や対処方法等を実体験することにより、万が一そのような状況になっても慌てず対処できるように備えることを目的に実施しています。

また、併せて救助方法や救助時に使用するロープの結び方の訓練も実施しています。



◎QRとアプリを利用したヒヤリ・ハット活動

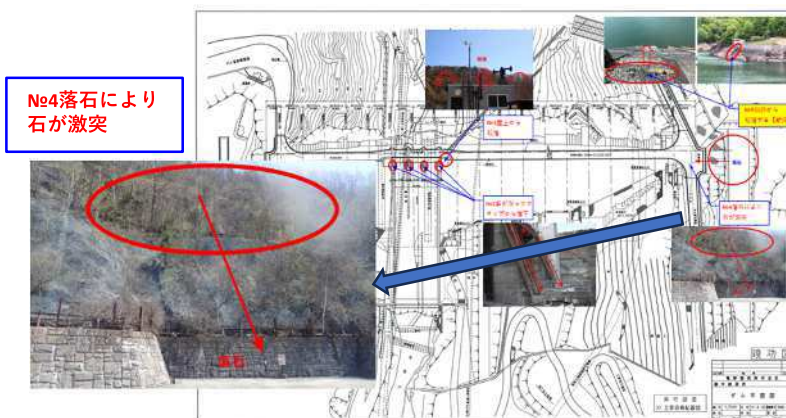
ヒヤリハット活動の活性化を目的とし、2024年度よりQRコードとアプリを利用した活動を実施しています。



◎重大リスクマップの作成

全社の取り組みとして「繰り返し型災害の防止」を目的とした重大リスクマップを作成しています。

各設備の危険源を洗い出し、図面等を用いてマップ化し、見える化することで、社員、パートナー企業従業員を含め関係者と危険箇所と災害事例を共有し、繰り返し災害の撲滅に取り組んでいます。



事務局からのコメント

落水事故の経験から着衣状態の落水体験訓練をされているのが大変素晴らしいです。救助方法も訓練されており、今後も事業場に即した安全対策や訓練を継続していただきたいです。